

考えてもらい、食費については一週間の献立を考えてもらった。話し合いで挙げられた項目は、前面に貼り出した大判の台紙付きパッドに板書した。

それぞれのエリアごとの議論の概要は次の通りである。

- ・食べ物について、男女とも、朝食はパン派とご飯派に分かれたが、献立に両者をいれることで合意した。女性はもちろん男性もおおむね自炊の食生活が検討された。
- ・住居について、男性の場合、当初は2Kを選択する意見があったが、1K（居室は十畳程度）で十分であるという合意に至った。女性では、住居は寝室と居間2部屋の2Kが支持された。
- ・家具家事用品について、男女とも、ベッドを使うか否かはなかなか一致できず、ペンディングとなった。調理器具などは自炊のためもあり、若年層よりは多めとなった。
- ・光熱水費について、高齢者の賃貸の場合、火災の危険からオール電化ではないかとの意見もあったが高額であり、ガスの扱いが決められなかった。
- ・衣類について、嗜好が反映されるため、特定の財を挙げるのが難しい場面が少なくなかった。
- ・交通通信について、男女とも三鷹市内が生活圏であり、交通手段としては、自転車とバスが支持された。バスはシルバーパスを購入のため「タダ」と受け止められている。通信手段として、男性は固定電話と携帯電話の双方、女性は携帯電話のみでよいとなった。
- ・教養娯楽について、TVは男女とも必要、新聞は男性は朝刊だけ、女性は不要となった。女性は特に趣味や旅行費用などにお金をかけなくてよいという選択であった。ほとんど費用はかけなくても、市の講座など利用できるとしている。
- ・交際費について、香典等は男女差はなかったが、子や孫との関係で支出される交際費は、男性でかなりの額が算定されたのに対して、女性は友人との会食や同窓会などが挙げられた。

第4段階 価格づけ、専門家の検証

価格づけの作業は、食費以外の項目については、全て本プロジェクトの研究チームで行った。食費は、研究チームがフォーカス・グループの議論の結果をもとに献立リストを作成し、それについて栄養専門家に栄養チェックを依頼し、その後、研究チームが食品の価格付けを行った。

事例グループでの話し合いの結果をもとに、単身高齢男性、単身高齢女性と二種類の最低必要な品目リストを作成した。基本的に、昨年度と同様の形式で作成している。

価格付けの際に、購入場所の情報が必要となる。食べ物、家具、食器、衣類については、およその購入店舗が挙げられたので、基本的に実店舗での実売価格を調べた。ご協力いただいたのは、参加者が購入先として多くあげたイトーヨーカドー武蔵境店、東急ストア、いなげや、などである。自転車、家具等は、三鷹市内の小売店でも価格調査を行った。当然のことながら価格には変動があるが、本プロジェクトの価格付け作業には、基本的に2011年8月～2012年3月の販売価格を用いた。英国での方針と同様、セール価格は用いないこととした。ただし、定価ではなくても、オープン価格や割引価格での購入が日常的に可能になっているような品目については、その価格を用いた。

以下、住居費、水道光熱費、食費の価格付けの手続きについてまとめる。順序は前後するが、確認グループ、最終確認グループで改めて参加者から出された意見に対してどのように対応したかについてもここでまとめておく。

住居費

事例グループで合意された間取り条件を満たす物件を三鷹市で借りた場合の家賃について、不動産会社からの情報を頼りに算定することにした。不動産会社だけがアクセスできるデータベースでは、実際に空いている物件の情報を入手できるため、契約済みの物件情報も掲載されている可能性のあるインターネット上の広告よりも、家賃相場を的確に把握できると考えられる。

家賃は、当然のことながら最寄駅の利便性やそこからの距離に影響されるが、築年数の長さによっても大きく違ってくる。築年数の長い物件は家賃が低く設定される傾向がある。しかし研究チームは、耐震構造が本格的に推進された 1995 年以降に建築された物件、あるいは大きな地震にも耐えうると見られる構造の築 20 年以内の物件の中から選ぶことを条件とした。

水道光熱費

水道光熱費については、事前に各自が実際に支払っている金額を調べておいてもらい、最低必要な 1 か月あたりの金額を話し合ってもらった。確認グループと最終確認グループでも、同様の準備を参加者に依頼した。

食費

MIS プロジェクトにおける食費は、一般市民の意見が反映され、しかも栄養専門家が栄養面での評価を加えた献立に基づいて算定される。事例グループで 1 週間分の献立（料理名）を話し合って作成した。続いて、その献立と、その他に話し合われた 1 か月あたりの外食回数などを加味して、研究チームが 1 か月分の献立を作成した。献立作成に当たっては、e-献立作成ソフト「らくらく献立 EX2010」を利用した。さらに栄養専門家として日本女子大学教授 高増雅子氏に、1 週間分プラス二日分の栄養チェックを依頼した。必要な場合は、栄養専門家が献立修正アドバイスを作成した。

研究チームは栄養専門家のアドバイスをもとに、必要な栄養素を摂れるよう献立を修正した。栄養専門家が示してくれた食品の他に新たに追加する必要がある場合には、文部科学省のウェブサイトにある『五訂増補日本食品標準成分表』¹を参考にした。また、外食やテイクアウトの食品については、それぞれの店舗のウェブサイトや商品ラベルに記載された栄養価表の情報を利用した。続いて、修正された献立を用意するために必要な食品のリストを作成し、イトーヨーカドー武蔵境店、いなげやの食品売り場で野菜、肉、魚、乳製品、米、調味料、飲料、菓子類など、フォーカス・グループで提案された食品の価格を調べた。後で 1 グラムあたり、1 個あたりの単価に直せるよう、その価格で何グラムあるいは何個買えるのかもメモした。外食やテイクアウト食品の価格も、三鷹市内にある店舗やインターネットで調べた。

第 5 段階 確認グループ

確認グループの主たる課題は事例グループの話し合いの結果をチェックすることである。具体的に品目リストを見渡しながらか、「基礎的生活」を送るために最低必要なものが残らず含まれているか、あるいは「基礎的生活」にしては贅沢なものが含まれていないか確認する。事例グループで合意に至らなかった項目については改めて考え、食費については栄養専門家の提案を受けて修正した献立が妥当かどうか確認する。また、事例グ

¹ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu3/toushin/05031802/002.htm

グループでは時間が足りなかったため、なぜ必要かについて十分な議論ができなかった品目もについて、議論することも課題である。

- ・住居について、男性は1DK（縦型）、女性は2DK（振り分け型）となった。トイレと風呂は別々が支持された。
- ・食べものについて、男女ともに、原案より、もう少し手を抜いた（男性：総菜購入、女性：おかずの繰り返し）食生活とし、外食は月1回位とする。自炊派はやや減り、昼は麺類通いと意見や、余り物を翌日食べるような生活が普通との意見あり。
- ・交通通信費について、シルバーパスの利用で原案通り、パソコンは議論の末、最低限としては不要。TVや新聞で情報は入手できるとの意見が支持された。女性も固定電話が必要となる。
- ・交際費について、男性は原案の冠婚葬祭は少ないとし、増額。女性は原案を承認する。なお、墓の管理費についても話し合われたが、必要性はそれぞれ違うので、最低生活費には含めず、墓参の花や線香代だけを計上した。
- ・家具家事用品について、寝具はベッドで合意する。

なお、今年度は昨年度と異なり、確認グループと再確認グループは男女混成グループとした。全員で10名と少し人数が多いこともあってか、最初はなかなか意見がでなかった。2つめのトピックである食生活が終わる頃には少しずつ意見を述べることに慣れてきたように思う。食生活では、それぞれご自身の生活実態や好みを紹介して下さるが、「中村さん」「山本さん」の生活としての妥当性の判断が難しいようであった。他の方の意見は否定しにくく、自身の生活を紹介することで、別の意見があることを示すが、最終的に「中村さん」「山本さん」の生活としての合意が示されにくかった。最初の住居の話し合いで価格のことが話題となったので、予算制約ではなく必要性で考えて欲しい旨説明したことで、その後はあまり予算制約的な考え方で発言はみられなかった。男女共通の内容も多いが、男性分は男性に、女性分は女性に合意できるかをそれぞれ確認するため、時間的に厳しかった。要確認事項箇所についてすべての確認はできず、最終確認グループに積み残しがでた。

第6段階 最終的な生活費の算定

確認グループでの話し合いをもとに、生活費をさらに修正した。事例グループで合意された品目に対しても、確認グループで異論が出たり、新たな合意が形成されたりすることがあった。そういった品目については、価格づけの作業を部分的にやり直すこともあった。順序を前後して第4段階の価格付け作業のところの説明したように、住居費、水道光熱費、食費について再度情報収集し、フォーカス・グループの参加者の合意水準を反映するような価格付けを目指した。

第7段階 最終確認グループ

最終確認グループは、確認グループとは異なる男女の参加者の混合グループで話し合ってもらった。課題の多くは、確認グループまでに算定された基礎的生活費の最終確認と、確認グループまでに合意に至らなかった論点について話し合うことだった。

- ・住居について、男性は1DK、女性は2DKの現在示されている間取りがよいと原案で合意する。部屋に誰かをよぶことを想定する女性と想定しない男性とで一間か二間かの判断が分かれたようである。
- ・食べものについて、男女とも、朝昼が一緒に夜と一日2回の食事という意見が多い。原案の献立では量が多すぎるとのことで、現実にあわせた献立に変更することで合意する。自炊より買った方が安上がりとの意見もあった。
- ・家具家事用品について、男性はテレビ台と本棚は不要だが服をかけるラックが必要、女性は客用布団セットを追加する。
- ・衣類について、男性は、ソックス夏2足、冬3足を一年の耐久年数とする。女性は、夏用礼服を不要とする。
- ・保健医療費について、うがい薬、マスク、ホッカイロなど女性に入っているものが必要で男女同じにする。
- ・その他、男女とも仏壇は不要とする。

最終確認グループの最後では、おおよその生活費の総計を示し、金額についての感想を聞いた。男女ともに、家賃も含めて20万くらいという結論について、女性からは、ちょうどよい値段かなという感覚がある、男性からは、ぎりぎり出来るのではないかという気がする、との意見があった。

【参考文献】

Bradshaw, J., Middleton, S., Davis, A., Oldfield, N, Smith, N, Cusworth, L. and Williams, J. (2008), *A Minimum Income Standard for Britain: What People Think*, York: Joseph Rowntree Foundation.

2. 高齢単身男女の最低必要な基礎的生活費月額

(1) はじめに

事例グループ、確認グループ、最終確認グループいずれの話し合いにおいても、最初に昨年度の導入グループの話し合いにより導出された「誰にでも最低必要な基礎的生活」の定義である「現代の日本における誰にでも最低必要な基礎的生活は、衛生的、健康的であり、安心かつ安定して暮らせる生活を指す。そこには、衣食住のほか、必要な情報、人間関係、娯楽、適切な働き方、教育、将来への見通しなどを手に入れられる環境が整っていることが必要である。」の説明が行われ、そのことを前提に男女それぞれの具体的な仮想人物である三鷹在住の中村武さんと山本良枝さんにとって必要なもの・サービスを列挙、確認していただいた。中村さん、山本さんは特別な重い病気や障害はなく年齢相応に加齢している 71 歳のひとり暮らし、という設定である。就業状況については、少なくとも現時点では平日の中心的な活動として就業はしていない（ただし、シルバー人材センター等の登録の仕事に従事する場合はある）。

(2) 住居の確定

3 グループ（事例グループ、確認グループ、最終確認グループ）の話し合いを経て、男性は1DK、女性は2DKの住宅に住まうこととなった。インタビュー協力者は話し合い時点で単身居住であることは共通であるが、それまでの生活履歴、実際の住居形態については対象者限定の条件にしていない。研究グループではそれらの状況を承知していないが、様々な状況の方が協力してくださったと考えられる。各自の実態ではなく仮想の「中村さん」「山本さん」の最低必要な基礎的生活を決める際にも、それぞれに異なる現在保有するもの、子や孫などの親戚の宿泊実態などを踏まえながら、合意点が探り出された。

男性の場合、事例グループにおいて、親戚の宿泊などもあり、居室として2部屋が必要との意見もあがったが、そのような場合にはホテル等宿泊施設を利用することができるので不要、また掃除の手間等も考慮して居室は1部屋でよい、この他に冷蔵庫の置ける位の広さはある台所と風呂とトイレ（風呂・トイレは独立）、洗濯物の干せるベランダのある住居で合意した。確認グループでは、ワンルームでよい、風呂は近所の銭湯を利用した方が広いし掃除も楽との意見があがったが、最終的には事例グループの意見に合意した。最終確認グループでも、再び居室2部屋必要という意見、チェックバックで確認したものでよいという意見、ベッド等を置くことを考えて居室・ダイニングが少し広めの1Kというより1DKのものがよいとの意見があがり、最終的に1DKで合意した。駅からの距離については、いずれのグループでも、それほど頻繁に電車に乗る生活でもないし、年間パスで安価（所得によっては無料）にバス便が利用できるので、駅近くにはこだわらない、との意見で合意した。

女性の場合、事例グループでは男性と同様に孫等が来ること、これまでの人生で蓄積されているであろう様々なものの保有を考慮し居室として2部屋必要で合意した。2部屋の配置について、玄関からすべてが見渡せないような左右振り分け型であること、この他、エレベーターのある2階以上の耐震性のある物件という条件が付された。研究グループで物件を探した結果、エレベーターのある物件は比較的高層の建物で家賃が2倍近く高いためエレベーターはないがそのほかの条件にあてはまる物件を探した。確認グループでは、事例グループと同様に2部屋必要との意見があがったがエレベーターの必要性には固執せず、最終的には事例グループの結果に合意した。最終確認グループでも、確認グループでの合意に同意が得られた。

(3) 高齢単身男女の「最低必要な基礎的生活」費用

3つのグループの話し合いを経て、単身高齢男女それぞれに確定した「最低必要な基礎的な生活」費用の月額額は、男性 174,633 円、女性 180,803 円である。その内訳は図表－1 に示す通りである。

消費構造をみると、男女ともに、消費支出のうち住居費（家賃の他、管理費、民間賃貸物件を借りる際に必要となることの多い敷金、礼金、火災保険料分を月額換算し上乗せした金額）割合がもっとも高く、特に女性の場合には 46.4% を占める。男女ともに、ついで高いのは食料費であり、男性では 19.2%、女性では 18.4% を占める。男性には外食が計上されていないが、月 1 回の友人との飲み会分 2,069 円は交際費に計上されている。稼働年齢の男女の場合には外食割合が食料費のそれぞれ 27.6%、23.8% を占めていたが、高齢者の場合には外食割合は低い。男女ともに、弁当や総菜を適宜利用（夕食では週 2 回弁当購入、週 2 回主菜購入）しており、食料費中中食割合が、男性では 27.6%、女性では 27.0% を占める。

この他、男性では 9.5% を占める交際費を含むその他の消費支出割合が 12.4% と高い。女性の場合、冠婚葬祭費用のうち香典、見舞い費用として年額 20,000 円としたが、男性の場合には、香典の他年に 1 回の結婚祝い 30,000 円を加え年額 50,000 円とした。この他、子や孫を含む親戚への贈与金、贈答品として年額 100,000 円が必要とされた。

教養娯楽費割合は、男性では 7.8%、女性では 8.1% と、食料、住居以外の費目では割合が大きい。交通通信費割合は、通信費割合の高さの影響を受け男性の方が女性に比べ高い。光熱・水道費は男女同額、保健医療費もほぼ同額である。家具・家事用品費、被服及び履物費は女性の方が金額が大きく、割合も大きい。男女ともに、10 大費目の中では被服及び履物費の割合がもっとも小さい。

(4) MIS 結果と一般平均値（「全国消費実態調査」・「家計調査」）との比較

本調査の結果を、総務省統計局「全国消費実態調査」と同「家計調査」を用い、高齢単身者の平均値と比較し、本調査結果の位置づけを行う。全国消費実態調査は、調査対象世帯は多いものの 10、11 月の 2 ヶ月間の調査であり、年間通じた消費実態を捉えることはできない。一方、家計調査は年間通じてデータが集められているが、本調査と比較可能なように属性を限定すると調査対象世帯数が少ないため、3 カ年の平均（集計世帯数を用いての重み付き平均）値を用いた。具体的な比較対象として、①総務省統計局「全国消費実態調査」2009 年調査の単身世帯・無職世帯・65 歳以上(65～69 歳、70～74 歳、75 歳以上の各平均値の単純平均)の性別データと、②同「家計調査」の単身世帯・65 歳以上の 2009 年、2010 年、2011 年の 3 カ年の平均値データを取り上げる。集計データでは、高齢単身世帯について本調査の調査対象地である大都市圏に限定することはできないため、全国消費実態調査を用い、65 歳以上が 7 割を占める勤労者以外の単身世帯データにより大都市の費目別消費の特徴を捉えると、10 大費目では外食費の高さを反映した食料費、家賃地代の高さを反映した住居費が高い。また、②には就業している者も含まれており、有業率は男性 15%、女性 12% である。②の男女計の消費支出額を無職の 65 歳以上の消費支出額に比べると 3% 高い。教育費を除く 10 大費目別に②と 65 歳以上無職世帯の支出額を比較すると、いずれも②の方が大きい。就業に関わる可能性のある被服及び履物費、交通・通信費の割合では 7%、その他の消費支出割合では 4%、無職世帯に比べ大きい。他の費目は 1、2% 程度の差である。なお、消費者物価指数（2010 年=100）の総合の 2009 年、2011 年の値は、東京都区部では 101.0、99.5、関東大都市圏では 101.2、99.7 と低下傾向にあるが、全国消費実態調査、家計調査いずれも調査時点の値をそのまま用いている。

消費支出全体では、全国消費実態調査データ、家計調査データに対する本調査結果の値（以下、対全消、対

家計調査)はいずれも100を超え、本調査の方が高い。一般平均データでは高齢期の持ち家率は比較的高く、全消では男性67.3%、女性78.2%、家計調査では男性73.1%、女性80.4%であり、持ち家の場合には家賃費用は不要である。本調査では賃貸居住を前提であり、家賃を含む住居費が消費支出の約4割を占めており、住居費を除く消費支出額は男性108,508円、女性96,928円である。この金額を全消、家計調査と比較すると、対全消では男性86%、女性71%、対家計調査では男性85%、女性72%と、男性は一般平均値の約8.5割、女性は7割強の支出額となる。稼働年齢単身男女の場合にはMIS調査の値は一般平均値の7割前後であったので、男性の一般平均値からの圧縮度は稼働年齢単身男女に比べるとやや小さいが、女性はほぼ同程度の圧縮度合いである。

食料費は、男性では90%台で本調査の方が低く、女性では100%台と本調査の方が高い。男女ともに乖離は10%以内である。

光熱・水道費は、対全消では本調査の方が高く、対家計調査では本調査の方が低い。全消は冷暖房の必要性が比較的低い時期の調査であることが影響していると考えられる。本調査で選択された冷暖房機器は、男性ではエアコン(住宅備え付け)とこたつ、女性ではエアコン(住宅備え付け)である。本調査ではガスは調理と風呂に用いられることになるが、ガス代は、対全消では男性185%、女性167%、対家計調査でも男女とも130%台と、本調査が大幅に上回っている。稼働年齢単身男女の場合にも、ガス代は対全消、対家計調査いずれもMIS調査が45%から68%上回っており、「食材等の購入が相対的に多く、調理の機会が多いと考えられる本調査の方が、ガス代が高い」と考えていた¹。インタビュー協力者の中には、ガストーブや床暖房を使用している人たちも含まれており、仮想の具体的人物の「最低必要な基礎的生活」費用の検討と理解しつつも実際の量をイメージしにくい光熱・水道費では各自の生活実態そのものが表れやすくなっている可能性が考えられる。

家具・家事用品費については、対全消、対家計調査いずれも本調査の方が高い。内訳のわかる家計調査との比較では、寝具類、家事雑貨、家事用消耗品について、男女ともに本調査の方が高い。特に、寝具類では大幅に上回っている。稼働年齢単身男女の場合にも同様の傾向がみられた。昨年度の報告書で指摘したように、耐用月数で調整するものの一時点ですべてを新規購入する状況である本調査では、全消や家計調査に比べると金額が高めにしやすい可能性がある。

被服及び履物費について、女性の場合対全消では90%、対家計調査では103%と本調査がやや下回る、あるいは同程度であるが、男性の場合には対全消、対家計調査ともに2倍を超える支出額となった。男性の場合、洋服、下着、他の被服いずれも200%を超えている。品目の件数は事例グループから最終確認グループまであまり変化しなかったが、各品目の点数は最初の事例グループにおいて比較的多めに合意された。その後のグループにおいて削減されているが、話し合い時間全体の関係から1つ1つの品目に必ずしも十分時間をとることができないことも影響したためか、最終的に相対的に保有点数が多くなった可能性がある。

保健医療費については、本調査では男女の差はほとんどないが、全消、家計調査では男性の方が低い。女性の場合には全消、家計調査との乖離は±6%であるが、男性の場合には本調査の方が対全消37%、対家計調査10%高い。男女ともに健康診断については自治体の無料のものを受診することで合意した。健康な男女の想定であるが、71歳という年齢の場合風邪等の他にも何かしら通院を要することがあり、健康診断以外の診

¹ 岩田正美、阿部彩、岩永理恵、卯月由佳、重川純子、山田篤裕(2011)『厚生労働科学研究費補助金政策科学研究事業(政策科学推進研究事業)「貧困・格差の実態を貧困対策の効果に関する研究」平成22年度総括研究報告書別冊1)「最低所得基準(Minimum Income Standard: MIS)法を用いた最低生活水準の推計(勤労世代単身男女、子ども)【三鷹MIS】』p.32

療・処方薬については、歯科を除く診療費として月額 3000 円、処方薬代月額 3000 円、歯科治療 1 回 3000 円を年 4 回受診で合意し、これらで月額 7000 円である²。保健医療費中、シニアグラスは共通的に必要なものとして費用が計上されているが、義歯については共通的に必要なものとの合意とはならず費用計上されていない。

交通・通信費は、男性では対全消 59%、対家計調査 60%、女性では対全消 47%、対家計調査 62%と、いずれも本調査の方が大幅に低い。日常的な移動手段は、自転車あるいはバスの利用である。バスについては、70 歳以上の都民の場合、都営交通機関、都内民営バスを利用できる「東京都シルバーパス」を利用可能である。合計所得金額 125 万円（収入が公的年金のみの場合、公的年金額 245 万円）以下の場合には年額 1000 円で利用可能であり、バス代として年 1000 円を計上している。通信費については、男女とも対全消、対家計調査いずれも本調査の方が高い。話し合いの結果、通信手段として、携帯電話と固定電話両方保有することになった。固定電話については、特にファクシミリの必要性から保有することになり、電話機器はファクシミリ付きのもので合意した。通話料については、使用頻度、通話時間から積み上げたものではなく、インタビュー参加者の実態から合意点を見いだしており、先述のガス代と同様に「最低必要な基礎的生活」が見定めにくい可能性がある。

教養娯楽費は、男女ともに対全消、対家計調査いずれも本調査の方が低い。全消、家計調査では男性の方が女性より高いが、本調査では女性の方が高い。男女の教養娯楽の内容はほぼ同様であるが、新聞の購読について、女性は朝夕刊必要とされたが、男性は朝刊のみ必要とされ、この差額が教養娯楽費の男女差の主なものである。

その他の消費支出についても、男女ともに対全消、対家計調査いずれも本調査の方が低い。男性では 70% 台であるが、女性では 20% 台と著しく低い。一般的に高齢期の消費の特徴として交際費割合の高さがあげられる。女性の場合には月額 3,000 円弱で一般平均値の約 10%と著しく低いが、男性の場合には一般データとほぼ同程度、あるいは上回る金額の交際費を支出している。交際費の男女の相違について、値は異なるが傾向は稼働年齢単身男女と類似している。すべての人に共通的な支出として、墓参り費用はその他の消費支出に含まれているが、仏壇、墓地関係費用については、話し合いの過程で必要との意見もあがったが、人により状況が異なり共通的に最低必要とはいえないと合意し、含まれていない。

図表-2には、費目別の対一般平均値を図示している。食料、光熱・水道、家具・家事用品のような生活必需品は家計調査や全国消費実態調査の結果と同程度の支出額となったが、交通・通信、教養娯楽、その他の消費支出のような各人の裁量幅の大きい選択的な支出の費目では本調査の支出額は 20%から 80%程度の支出額となった。この結果は、稼働年齢単身男女の結果と重なる。ガス料金や電話通話料のように、インタビュー協力者の現状に強く依存する可能性のある項目もあるが、費目別の支出傾向からは一定の妥当性があると考えることができる。

² 高齢者の国民健康保険医療費負担は以下の通り（三鷹市・国民健康保険についてのウェブサイトより（公開日、最終更新日：2012年3月24日）http://www.city.mitaka.tokyo.jp/c_service/000/000428.html）。同一世帯の70歳以上75歳未満の国民健康保険被保険者全員の中に1人でも基準額（市民税の課税所得〈課税標準額〉が145万円）以上の人がある世帯に所属する70歳以上は「3割負担」、基準額以上の人がない場合は「2割負担」。ただし、基準額以上でも70歳以上75歳未満の国民健康保険被保険者の収入額の合計が一定基準未満の場合、申請により「2割負担」となる（70歳以上の人2人以上の場合は520万円、1人場合は383万円）。課税所得が145万円以上で収入が383万円以上の人でも、旧国保被保険者との収入の合計が520万円未満であれば、申請により「2割負担」。平成25年3月31日までの臨時特例措置として、70歳から74歳で「2割負担」の人は「1割負担」。

図表－1 高齢単身男女の最低生活費月額

	三鷹MIS ¹⁾				全国消費実態調査		家計調査			参考: 家計調査 2009～11年 ³⁾ 無職 65歳以上 男女	参考:全国消費実態調査			三鷹MIS		三鷹MIS	
	実額		構成比 (%)		2009年 無職世帯 65歳以上 ²⁾		2009～11年 ³⁾ 65歳以上				勤労者以外の単身世帯 (7割が65歳以上)			全国消費実態調査 (%)		家計調査 (%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男女		全国	大都市	大都市 全国	男性	女性	男性	女性
消費支出合計	174,633	180,803	100.0	100.0	147,368	151,452	141,320	147,151	145,452	141,220	162,159	170,759	105	119	119	124	123
食料	33,584	33,340	19.2	18.4	36,440	31,766	35,907	31,295	32,652	31,890	36,412	40,457	111	92	105	94	107
外食	—	1,214	—	0.7	8,272	4,885	8,195	4,213	5,385	4,888	9,345	12,098	129	—	25	—	29
住居	66,125	83,875	37.9	46.4	21,283	14,739	13,680	13,317	13,446	13,099	20,863	23,768	114	311	569	483	630
光熱・水道	11,500	11,500	6.6	6.4	10,044	10,492	12,402	12,516	12,478	12,349	10,323	9,821	95	114	110	93	92
電気代	5,000	5,000	2.9	2.8	4,573	4,506	5,863	5,610	5,682	5,551	4,602	4,490	98	109	111	85	89
ガス代	4,500	4,500	2.6	2.5	2,438	2,690	3,252	3,445	3,389	3,376	2,685	2,555	95	185	167	138	131
他の光熱	—	—	—	—	762	836	1,109	1,132	1,124	1,158	686	397	58	—	—	—	—
上下水道料	2,000	2,000	1.1	1.1	2,271	2,459	2,178	2,329	2,282	2,264	2,350	2,380	101	88	81	92	86
家具・家事用品	5,260	6,350	3.0	3.5	5,008	5,649	4,515	5,745	5,388	5,376	5,065	5,049	100	105	112	117	111
家庭用耐久財	1,484	1,811	0.8	1.0	1,231	1,709	1,497	2,002	1,856	1,878	1,543	1,479	96	120	106	99	90
室内装備・装飾品	340	327	0.2	0.2	—	—	410	479	457	472	620	802	129	—	—	83	68
寝具類	627	1,194	0.4	0.7	—	—	138	350	287	273	373	455	122	—	—	456	341
家事雑貨	1,440	1,696	0.8	0.9	—	—	745	947	886	865	1,044	1,060	102	—	—	193	179
家事用消耗品	1,369	1,321	0.8	0.7	—	—	816	1,128	1,036	1,046	913	885	97	—	—	168	117
家事サービス	—	—	—	—	—	—	911	839	865	840	574	372	65	—	—	—	—
被服及び履物	4,948	6,292	2.8	3.5	2,420	7,026	2,374	6,087	4,988	4,646	6,831	7,299	107	205	90	208	103
和服	—	—	—	—	—	—	1	451	319	235	67	86	129	—	—	—	—
洋服	2,821	3,927	1.6	2.2	—	—	1,112	3,446	2,754	2,626	4,215	4,491	107	—	—	254	114
下着類	826	830	0.5	0.5	—	—	349	534	479	466	609	579	95	—	—	237	155
生地・糸類	—	—	—	—	—	—	14	195	141	116	122	111	91	—	—	—	—
他の被服	605	708	0.3	0.4	—	—	275	471	413	400	602	661	110	—	—	220	150
履物類	462	555	0.3	0.3	—	—	345	580	511	476	827	1,012	122	—	—	134	96
被服関連サービス	233	272	0.1	0.2	—	—	278	410	371	329	392	358	91	—	—	84	66
保健医療	8,493	8,471	4.9	4.7	6,210	8,985	7,712	8,027	7,932	7,845	7,443	7,090	95	137	94	110	106
交通・通信	9,492	6,387	5.4	3.5	16,175	13,525	15,883	10,374	11,981	11,211	17,445	16,613	95	59	47	60	62
交通	923	293	0.5	0.2	2,482	3,877	2,682	3,101	2,979	2,831	4,573	6,048	132	37	8	34	9
自動車等関係費	289	301	0.2	0.2	8,964	4,151	8,936	2,746	4,553	4,079	6,763	4,291	63	3	7	3	11
通信	8,280	5,793	4.7	3.2	4,729	5,497	4,266	4,527	4,449	4,301	6,110	6,274	103	175	105	194	128
教育	—	—	—	—	—	—	14	0	4	5	76	57	74	—	—	—	—
教養娯楽	13,576	14,676	7.8	8.1	22,462	20,932	20,138	17,256	18,122	17,942	21,576	22,184	103	60	70	67	85
その他の消費支出	21,655	9,913	12.4	5.5	27,326	38,337	28,696	42,536	38,463	36,858	36,125	38,421	106	79	26	75	23
諸雑費	5,144	7,121	2.9	3.9	11,708	15,948	11,393	15,534	14,308	13,518	15,499	17,504	113	44	45	45	46
こづかい(使途不明)	—	—	—	—	—	—	118	31	58	51	151	147	97	—	—	—	—
交際費	16,511	2,792	9.5	1.5	13,640	21,218	16,237	26,301	23,353	22,639	18,392	18,186	99	121	13	102	11
仕送り金	—	—	—	—	1,759	1,132	948	670	745	650	2,084	2,582	124	—	—	—	—
消費支出－住居	108,508	96,928	62.1	53.6	126,085	136,713	127,641	133,835	132,007	169,010	141,296	146,991	104	86	71	85	72

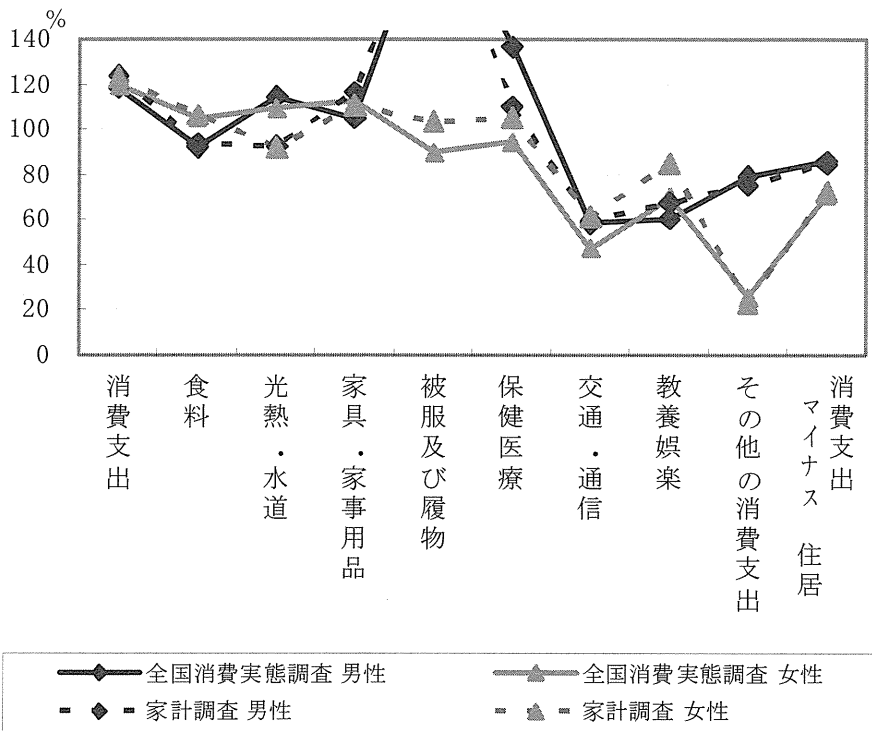
1) 三鷹MISの支出額は、小数点以下の端数処理のため、内訳分を足しあげた金額と合計金額が一致しない場合がある。

2) 65～69歳、70～74歳、75歳以上の値の単純平均値

3) 「家計調査(2009～11年)」の値は、2009年、2010年、2011年の値の世帯数重み付き平均値。

「家計調査(2009～11年)」および「全国消費実態調査(2009年)」は、いずれも総務省統計局調査データより作成。

図表-2 高齢单身男女の最低生活費対一般平均値



「被服及び履物費」の男性の値は、対全国消費実態調査が205、対家計調査が208。

「家計調査」の値は、2009～11年の値の世帯数重み付き平均値。

総務省統計局「全国消費実態調査(2009年)」の65歳以上の無職世帯の性別データおよび同「家計調査(2009～11年)」の65歳以上の性別データをそれぞれ100として算出。

3. M I S法による高齢単身世帯の最低生活費算定の課題

ここでは、M I S法による高齢単身世帯の最低生活費算定の課題を、次の三つに分けて記述しておく。(1) 高齢期生活の特性とM I S法、(2) 高齢期の男女によるニーズの考え方の違い、(3) M I S法一般の課題。

(1) 高齢期生活の特性とM I S法

高齢期の生活は、たとえばここで事例になった 71 歳の男女の場合であれば、少なくとも成人してから 50 年ほどのそれぞれの人生を生きてきたわけであるから、まず第一に過去の生活によって蓄えられたストックがかなりの幅で存在し、第二にそれに拮据けられた一定の生活構造や様式というものが、それぞれ出来上がっている、と考えられる。ところで、M I S法も含めて、マーケットバスケットによる最低生活費算定は、こうした過去のストックや生活構造を一応横に置いて、現在の高齢期の生活の必要(ニーズ)を一点一点の生活財やサービスとして積み上げていこうとする方法であるので、現実生活との乖離が大きい。これが若年の単身者の場合であれば、まだ自分自身の独立の生活を形成して比較的日子が浅いので、またゼロから考えるというこの方式が理解されやすい。しかし、高齢者の場合は、この点がなかなか納得しがたいようであった。

【ストック】

ある男性参加者は、「中村さんって方(男性の事例)は何も持っておられない方なんですか? 71歳で何も持っていない?」と思ったので、だいたい何か持っていると解釈したのですが・」と発言している。同じく、別の男性も「何でこんなに急須だおたまだなんて(いちいち話し合っているのか?)、皆持っているだろうと思って。こんな洋服だって今まで着ている洋服があるじゃないかと実は思ったもので。何かの都合でゼロであそこに入るとしたらこういうものが必要じゃないかということなんですね」と、確認しないとこの話し合いの意味がなかなか理解できない様子であった。

また女性の参加者は、「山本さん(女性の事例)がどんな方かわからないけど、ずっと三鷹に住んでいらっしやれば(固定)電話はあるだろうし、(新たに)固定電話はつけないと思う。たまたま山本さん(女性の事例)が今年の東北のような大きな震災ですべてなくしてしまったと方だとすると携帯だけで済ませると思う。お1人でしょ。」というような発言をしている。70歳にもなれば、ストックは当然存在しているものであり、M I S法でいこうとすると、そのストックが災害などで消滅したというような想定が参加者には必要となっているわけである。

また後でも触れるように、住宅の広さや間取りを設定しようとするときも「70(歳)くらいになるといろんな荷物が増えちゃうんですね。捨てられなくて。2Kないと収まらないと思います。今までの写真や本を捨てられないでたまっちゃうんですね」という理由で1Kは否定する意見が出ている。逆に、そろそろそれらを整理する年代に到達しているので、「コンパクトな生活」にした方がよいという意見もある。

【長年の習慣・現代の生活様式】

だが、生活様式について詳細に議論を振り返ってみると、長年の習慣にこだわる面と、新しい様式の取り入れの両面がある。たとえば携帯電話については、その所有を是としながらも、携帯を腕時計や目覚まし時計として使うのは難しいという意見が見られた。ある女性参加者は『、携帯が普及される前はずっと腕時計で生活していた。するとすぐ癖になって、携帯でこれっていうことはあまりなくてすぐこっちになると思うから、腕時計も目覚まし時計もいると思います。70歳を考えると。慣れていないかもしれないし。』と述べている。またパソコンの所有をめぐっては、男女とも、いるという人と、いないという人があり、時間をかけて話し合ったが、結局まだ使いこなせない人、使う必要のない人もいるのだから、ここでの最低限には入れないということで決着した。

他方で、女性の衣類について、和服を入れるかどうかを聞いたところ、女性参加者からは、「山本良枝さんは合理的に。そういうことはしない」「そう、新しい時代の人。」「浴衣は？要らない」という意見が続いた。これはすでにこの参加者達の年代で和服はほとんど「着ていない」ものであり、まさに「新しい高齢者」像として受け取られている。

同じように、食事についても、必ずしもこれまでの習慣にこだわっていないところがある。事例グループでは自炊派が多く、しかし、その内容は伝統と的な献立というよりは「健康志向」で、ともかくも野菜を沢山入れた味噌汁を作る、井いっばいのわかめを食べる、などが「自分の食生活」としてあげられた。参加者は全員、自立して暮らしており、社会活動にも参加しているが、糖尿病などの慢性疾患を抱えているために、カロリー制限が必要な人も存在していた。また一般に、近年の日本はさまざまな健康情報があふれており、こうしたことが大きな影響を与えているとも考えられる。

だが、確認グループ、再確認グループと進むうちに、自炊派は少なくなり、また食事の回数も三回も食べなくてよい、という意見が出るようになった。実際問題として自炊は手間もかかり、一人では素材を使い切れないために、調理済み食品やレトルト食品を購入する例が多く、また、自炊する場合でも、一度に作って、二～三回に分けて食べるというような実態がある。

たとえば、確認グループのある男性は、次のように発言している。「一人だとどうしても多くなっちゃう。スーパーも今単身用のものを売っているでしょう、100いくらで。ああいうのでいいでしょうね。少し賞味期限が近くなると、割引するから。半額とか。そういうのを出来れば買うわけです、僕は。最近24時間営業ですから、そういうことには事欠かない。近いからね」。

また、ある程度バラエティをもたせた1回目の献立を見て、確認グループの女性からは、こんな質問が出た。「ちょっと質問があるんですけど、お味噌汁結構これ、入ってますよね。お味噌汁の中身、みんな具が違うということは毎回毎回作る、ということなんですかね。・・・だけど、1回分という量を作るというのはすごく大変なんですよね。だから大抵多めに作るから、2回か3回ぐらい。だから献立的には、ちょっと無理があるんじゃないかなと思うんですけどね。」すると別の参加者からも同意の意見が次々と出された。たとえば「お昼同じ味噌汁と思います、私も。大根（のお味噌汁）にして、次の昼おなす（の味噌汁）はわざわざ作りませんもの。」「たいてい2、3杯ぐらいにはなっちゃいますものね。・・・最後余ったら私卵を入れて、おネギをちょっと入れるとか。中のお野菜が少なくなったら、卵とかおネギとかで、最後三杯目は。大体そんな感じです。我が家

の味噌汁は」というような発言がある。

他方で、ある女性参加者からは、「1人で作るでしょ、1人分の材料と光熱費や何かを考えると、買ったほうが種類が摂れて、きちんとしたものが摂れるという可能性もあるんですよね。1人前作るのにいくらかかるかなんてやってられない。それと高齢化してきたので、私も食が随分細くなりました。お弁当買って、2つに分けられる可能性もあるんですよね。おかず半分とかね」と、調理済み食品を買うことの合理性と、当初提示した献立の分量が多すぎるという意見があった。男性参加者も「こんなこと、我々の年代だとならないと思う。こういう献立作って3食するって。僕はもう、一切自炊はしないです。ガスも止めちゃって、今は冬だから暖房用に入れるけど、6、7、8、9（月）ぐらいはガスを止めちゃう。検針の人が、無駄ですよって言うてくれたから、止めちゃうんです。ちょうど部屋はあれとそっくりだけど、お風呂も一切使わないです。ただ、こういう食生活はちょっと考えられない。男で1人で、こんなこと出来るのかな。なんかおとぎの国みたい」とまで述べている。

これらの参加者の生活実態をそのまま事例の最低生活費へ反映させていかどうかは議論が分かれようが、話し合いでは、少なくとも次の点が献立修正において考慮されることになった。その一つは、栄養学の定めるカロリーと、参加者が良しとしているカロリーにはかなりの開きがあることである。慢性病治療や予防から、女性で1440キロカロリーの食生活を目標としているという発言もあった。第二に、これとも関連してか、すでに食が細くなっているから、2食でもよいという意見がかなりの人々から出された。第三に、変化をもたせた献立には抵抗感があり、参加者の多くの食生活は、もっと同じような献立の連続であり、特に朝はトーストに何か載せて、牛乳、コーヒぐらいであるという。

このように、参加高齢者の食生活は、伝統的な日本の食生活様式とも、栄養学の推奨するものとも異なっている。単身世帯であること、高齢期であることが、そうした様式や理論ではなく、1日2食も可であり、なるべく調理に手のかからない調理済み総菜などへの依存を高めているといえよう。

このように、高齢期は、それまで生きてきた生活のストックや習慣の上に暮らしており、他方で現代の様式の影響や、高齢期であること、単身世帯であることの制約も受けている。ストックや習慣についての考慮をどう考えるかはMISの大きな課題である一方で、高齢期の単身生活や現代の生活様式からの要請もあり、これらの複雑な諸相がわかることが、MISの話し合いの成果でもあろう。

(2) 高齢期男女によるニーズの考え方の違い

今回は、男女それぞれの2日にわたる事例グループの話し合いと、その後は男女混合での確認グループ、再確認グループの話し合いを行った。当初、混合グループでは双方の考えが相当影響を与え合うのでは、と考えたが、結果的にはあまりそうはならず、むしろ男女で際立ったニーズの違いがいくつか見られた。

【住宅の選択における男女の違い】

その一つは住宅の選択である。公営住宅を一応のスタンダードと考えることの出来るイギリスと異なって、日本の住宅は、民営借家をとってもワンルームから三LDKぐらいまでの幅が付帯設備も様々である。他方多くの高齢者は持家形成をしているので、何を高齢単身社の最低基準とするかは参加者にとってかなり難しい問題であった。結果的にこの住居選択は、男生が1DK、女性が2DKと異なったものとなった。この選択は、事例グループで比較的すんなりと合意された。

男性の場合、当初は2Kを選択する意見もあり、その理由は孫などが来たときに泊められるというものであった。しかし、年齢からいって、全体に「コンパクトな生活」が重要だという意見が出た。結局、孫などはホテルに泊まってもらえばよいので、住居はワンルームないしは1DK程度で十分であるという合意に至った。「コンパクトな生活」という意味は、ある男性参加者の「これから考えるとリビングだけ（は）コンパクトのほうがいい。整理したいが、捨てられなくて困っている」という発言に示されているように、現在はモノをもちすぎているので、段々に整理が必要だという認識である。もう一つの「コンパクト」は掃除の問題である。ある参加者は「掃除が一番面倒」という発言を繰り返した。さらに「コンパクト」の意味は「高齢者になると寂しい。70歳になってから、旅館に行って広い部屋に1人で泊まる（と寂しい）。1人でいられない」という発言に見えるように、「寂しくない工夫」とでもいえるかもしれない。これらの点は事例グループの2日目、確認グループにおいては揺るがなかった。

だが、最終グループで居間と寝室を分けたいので2間ほしいという意見があった。これは女性の二間の間取り図を一緒に見ていたことも若干関係していたかもしれない。ある参加者は「そのくらい（2DK）ならば1人で生活しても、食事して片付けて居間でゆっくりテレビが見られるという線は独り者で充分とは言わないけど、最低それぐらいじゃないかと思うんですね」と発言している。また「コンパクト」とは逆に、モノが入れられないだろうという意見もあった。そこで、いったんこれをペンディングにして、家具や家事用品などを決めた後に、それらの収納を前提にもう一度住宅の話し合いを行った。結論として、1DKであるが、キッチンが4・5畳、居間兼寝室が8畳の広さが確保されれば、最低限としてはよい、ということで合意された。

これに対して、女性では事例グループでまず2Kが支持された。女性の場合は、交際のところでも述べるように、子や孫など親族との交際はほとんど口にできなかったが、住居は「孫や友人が来るかもしれない」という理由で寝室と居間2部屋ということになった。確認グループでも2間で振り分けの間取りが支持され、2DK（振り分け型）となった。むろん家賃の高さなども議論になったが、ある女性参加者は「やっぱり住まいが基本ですから、女性で一人ですっところ、71歳のヤマモトヨシエさんの立場になれば、絶対に2部屋は欲しいし、右のお部屋（振り分け型）がいいです」と述べている。

もう一つの男女の際だった差異が示されたのは「贈与金」「交際費」であった。事例グループの話し合いでは、男性の贈与金、交際費は女性に比べ大幅に大きかった。その内容としては、孫や親類への誕生日などのプレゼント、お歳暮、香典、同窓会や友人との会食、などがあげられた。男性の場合は、確認グループでも71歳は「そういうことの必要な年齢」との意見から、さらに冠婚葬祭費が積み増されることになり、最終確認グループでは「飲み会」が交際費のくくり

とされることになった。これに対して女性は、香典などは男性と同様の金額があがったが、子や親戚への贈与菌、歳暮などの贈答ではなく、香典や入院見舞い程度のところで合意された。交際費は同窓会や新年会、忘年会などである。女性は、住居の選択では、孫や親戚が来るかもしれないという理由を挙げているが、交際費ではそれらへの贈与金は計上されず、どちらかという友人間の交際中心である。

このような男女の違いは、男性として、そう振る舞うことが必要、との認識の他、未既婚・離死別の背景が異なっている可能性も考えられる。なお、交際費と並んで、仏壇、お墓の管理料やお布施なども話題に上がった。結果的に墓参は花・線香代のみで合意したが、男性が祭祀の主体であるケースが多く、またそれを意識しているからかもしれない。

(3) M I S法の日本への適用をめぐる全般的な課題

M I S法を日本へ適用する場合の全般的な課題については、すでに前年度の報告でも述べているが、今回の高齢者単身世帯において気づいたいくつかについて、あらためて記しておきたい。

【参加者の選定とその組み合わせ】

その一つは、参加者の選定と組み合わせの問題である。

M I S法の核にあるのは、市民の自由な議論による合意で最低生活費を導き出していくことにある。その場合どのような市民の方の参加があったか、またその「組み合わせ」がどうであったかは、合意形成にとって大きな意味を持つてくる。一つのグループの人数が少ないだけに、実際に議論を初めて見ると、特定個人の意見に左右されることがしばしば実感される。

今回の高齢者単身世帯調査においては、事例になるべく近い高齢単身者のリクルートを調査会社に依頼したが、モニターに高齢者が少ないという事情があったことから、アルバイト等を行っている場合も可とした。第一回は男女とも、三鷹市シルバー人材センター登録者およびセンターが主催する趣味講座受講生に依頼することとなった。属性等の状況において特にある社会層に偏っているということにはなかったが、第二回、三回は、シルバー人材センターではなく、一般的なリクルート法に代えてもらった。ただし結果的にここでも全く無職の参加者は少なく、短時間働いている参加者が多かった。これは東京の地域的特性といえるかもしれない。また、参加者はかなり長時間の議論に参加できるほど健康とはいえ、年齢から糖尿病などの慢性疾患を抱えている方々もあり、すでに指摘したように、食事や通院についてはその立場からの発言もあった。

これらの参加者の状態、あるいはその「組み合わせ」は議論に微妙な影響を与えており、どのような参加グループを作っていけるのかが、M I Sにとっては大きな課題である。

【収入に応じたやりくり、バーゲン品など】

M I S法は、ニーズの積み上げから最低必要所得基準を作っていこうとするが、実際の生活は収入の多寡に応じて、これを調整していくのが普通である。したがって、収入は考えないことを参加者には伝えるものの、収入というガイドラインがないと決められないという意見が当然出てくる。特に住居費のような高額な支出についてはそうである。

住居の選択の際、最終確認グループのある男性参加者は、「部屋の広さや間取りは収入に応じて、民間ですから支払わなければならぬ。・・・そうするとどうしても、どこかで折り合いをつけなきゃいけない」という理由で1間を支持している。別の参加者も「自分の月の収入と出費ですよね。食費と住居費だけに割って、取っていかれた残りを食費と考えて生活出来るか、と考えたらこんな広いところは住めない、もっと安いところの小さいところにしか住めないというふうになっちゃうんじゃないですか？」と疑問を呈している。このような疑問については、M I Sの特徴を何度も説明し理解していただいたが、現実には高い住居費を支払うとすると、他を切り詰めるというようなバランス感覚が働くのではなかろうか。特に三鷹のように家賃は高いが、商業施設が多いところでは、バーゲン品などを組み合わせて、かしこく暮らすやり方を心得て、生活するというのが現実的なものかもしれない。家計の運営とはそうしたものであって、参加者は、自炊の方が無駄が出るので調理済みを買うとか、先にも述べたように自炊も一切辞めてしまって、ガスも解約するというような（これはむろん極端ではあるが）、「折り合い」を考えていくのである。そうした意味では、参加者はきわめてしっかりした生活者の印象があり、安い商品の買い方の情報などもよく把握している。

なお、この安い買い方について、M I S法ではいちおう正価で購入することを前提として価格調査をするが、現在の日本では、スーパーマーケットなどの安売りは常態になっている。価格調査をさせていただいたあるスーパーの広報担当の方のお話では、たとえば生活雑貨のコーナーならば、その中で少し安くする商品を日々順繰りに代えていく。そうすると、顧客は値下げの時にしか当該商品を買わなくなるのだそうである。いわゆる年末バーゲンなどではなく、このような値下げについては、今回は許容範囲としたが、弁当や総菜などの夕方の値下げについては含めないことにした。しかし、これも常態であり、それを待って購入する人々も少なくない。最低所得基準を作成する場合、どのような消費者像をイメージするかは難しいところであるが、ある程度のやりくり感覚は前提にしてもよいのではないだろうか。

【貯金について】

M I S法は、全ての必要を積み上げて、日本の場合はその1ヶ月分の生活費を耐用月数を用いて計上するわけであるが、費目によっては2ヶ月に一度、3ヶ月に一度、あるいは年に一回、数年に一回、というようなものがある。これらも含めた1ヶ月計算は、参加者の実感している月のフローとしての生活費とはややずれてくる可能性がある。実際の生活では、2~3ヶ月に一回とか1年に一回の支払いは、それを見越して貯金されており、他方で耐久消費財などの買い換え費用も貯金されていると考えるのが現実的である。そこで、すべてを1ヶ月の生活費にしてしまわないで、1ヶ月単位で消費されるモノやサービスと、それ以外を分けていくと、1ヶ月のフローと、ストックの更新費を分けられるのではないかと考えられる。このようにすれば、資産とは言えない、ストック更新費としての貯金の額を決める目処がたつかもしい。

最終品目リスト【高齢単身男性】

高齢単身男性											
	個数	耐用月数	単価	月額	備考	場所	価格	品名/型番	場所	価格	品名/型番
住居											
家賃地代	1	1	60000	60000	～10畳程度)、駅近くでなくても可、風呂トイレ別々、ベランダはゴミ箱が置け、洗濯ものが干せる広さ必要。1ルーム縦型	三鷹駅徒歩13分	60000	1DK(29.75㎡)、木造2階建ての1階、1977年築	三鷹駅バス7分	66000	1DK(24㎡)、1979年築
管理費	1	1	500	500			500			2000	
敷金	1	24	60000	2500			60000			66000	
礼金	1	24	60000	2500			60000			66000	
火災保険料	1	24	15000	625	賃貸住宅向け総合住宅火災保険2年契約	損害保険会社	15000	賃貸住宅向け総合住宅火災保険2年契約			
交通											
自転車	1	120	15800	132	変速不要、10年使用	リサイクルショップ亀屋	17980	26インチ新品	大山自転車店	15800	26インチ
防犯登録	1	120	500	4		自転車購入店	500	東京都自転車商防犯協力会			
空気入れ	1	120	1680	14		大山自転車店	1680	空気入れ			
自転車維持費	1	36	5000	139	パンク修理、3年に1度5000円程度	購入した自転車店					
電車	2	1	420	840	月2回三鷹⇄新宿月1～2回位						
バス	1	12	1000	83	非課税者1000円、課税者20510円/						
TV	1	96	38800	404	26インチ、DVD付き	コジマ電気	71866	三菱 REAL26型 HDD,BD内臓	コジマ電気	38800	東芝 26V型 ハイビジョン LED液晶テレビ「REGZA」
配送料/設置料	1	96	0	0	3000以上購入で配送無料	コジマ電気	0				
収集・リサイクル料	1	96	3360	35							
ラジオ	1	96	890	9	地震でも使用可能な携帯型	イトーヨーカドー	980	ポケットラジオ	コジマ電気	890	パナソニックAMラジオRP-30-
工具セット(ドライバーなど)	1	72	600	8	CB工具セット	イトーヨーカドー	1280	13pcsセット	東急ストア	600	8本セット
電池(アルカリ単3電池)	1	60	298	5	掛時計用等	イトーヨーカドー	298	7プレミアム8個			
電池(アルカリ単4電池)	1	60	580	10	TVリモコン等	イトーヨーカドー	580	7プレミアム8個			
電池(アルカリ単2電池)	1	60	248	4	目覚まし用	イトーヨーカドー	248	7プレミアム2個			
電池(アルカリ単1電池)	1	60	348	348	懐中電灯	イトーヨーカドー	348	7プレミアム2個			
新聞	1	1	3007	3007	朝刊のみ		3007/2550	朝日・読売・毎日/東京			
パソコン											
カレンダー	1	12	105	9		100均一	105				
旅行	1	12	40000	3333							
月謝 その他の娯楽	1	1	5000	5000	趣味、娯楽関係のもの・サービス。						
NHK放送受信料	1	2	2690	1345		NHK	2ヶ月 2690/45 80	地上契約のみ 2ヶ月2690円/ 衛生契約(地上含む) 2ヶ月 4580円			
贈与金(冠婚葬祭等)	1	12	50000	4167	葬式 近所5千円、親戚1万 各1回、結婚祝儀3万位						
親戚への贈与金	1	12	50000	4167	孫へ1.3万×2+子の妻へ2万						
親戚への贈答品	1	12	50000	4167	物品、送料込み的なので必要						
知人への贈答	1	12	2000	167	知人へ						
交際費	1	12	19000	1583	同窓会、他会合へ年4回(1回1万+3回3千円)						

最終品目リスト【高齢単身男性】

高齢単身男性											
	個数	耐用月数	単価	月額	備考	場所	価格	品名/型番	場所	価格	品名/型番
交際費	1	12	1000	83	祭りの寄付						
町内会費	1	12	1000	83	500。1000。なしの人も						
募金(赤い羽根・日赤等)	1	12	300	25	募金年300円程度						
携帯、インターネット、PC関連											
郵便	1	12	2000	167	年賀状は30枚程度、切手代含む						
電話機・電話料金					合算で月額4千～8千円。携帯電話機代は通話料に含む						
移動電話通信料	1	1	8000	8000							
固定電話	1	84	9480	113	FAX付電話機	コジマ電気	9480	シャープファクミリUX-D20CL			
家具類											
電子レンジ	1	96	9980	104	トースター機能付き	イトーヨーカドー	18800	シャープオープンレンジ RE-S15C-W	コジマ電気	9980/13800	ツインバードオープンレンジ DRD916-KD/シャープオープンレンジ REKS14
配送料/設置料	1	96	0	0	3000以上で無料					無料	
収集・リサイクル料		96	1000	0							
炊飯器	1	72	4880	68	五合炊き、しゃもじ付	イトーヨーカドー	8980	象印マイコン炊飯器 5.5合 MS-WB-10	コジマ電気	4880/5791	タイガーマイコン炊飯器 5.5合/象印マイコン 5.5合
コンロ ガステーブル	1	60	14112	235	2口 コンロ	イトーヨーカドー	17800	パロマグリル付	コジマ電気	14112	パロマグリル付
配送料/設置料		60	0	0							
冷凍冷蔵庫	1	108	44600	413	5,6万程度のもの。300L	イトーヨーカドー	44800	シャープ	コジマ電気	44600/52500	シャープ2ドア 228L 高さ1491mm/サンヨー3ドア255L 高さ1405mm
配送料/設置料		108	0	0	3000以上で無料						
収集・リサイクル料		108	5355	0							
掃除機	1	72	3080	43	縦型?腰をかがめなくとも使用可能のもの	イトーヨーカドー	9980	パナソニックスティッククリーナー MC-U10C-A	コジマ電気	3080/7140	ツインバード・サイクロンスティック TC-E117W / パナソニックスティッククリーナー MC-
洗濯機	1	72	22800	317	全自動	コジマ電気	22800/29800	SANYO簡易乾燥機能付5kg/洗濯乾燥機			
配送料/設置料		72	0	0							
収集・リサイクル料		72	3045	0							
エアコン	1				住宅に備え付け						
ストーブ	0	72	13200	0	石油ストーブは使用しない	イトーヨーカドー	3980/14800	YAMAZENセラミックファンヒーター/ダイニチ石油ファンヒーター	コジマ電気	13200	ダイニチ石油ファンヒーター
扇風機	1	36	1600	44		コジマ電気	1600	ユアサリビング扇風機			
こたつ	1	72	3430	48		イトーヨーカドー	9800	リビングコたつ 80×80	コジマ電気	3430	エルテックカジュアルこたつ75×75
こたつ用布団	1	60	5980	100		イトーヨーカドー	5980	IYルテック 190×190			
こたつ用敷物	1	60	1280	21		イトーヨーカドー	1280	コたつマット100×100			
衣装ケース	4	96	1270	53	プラスチック1つずつ 独立の物を4つ	イトーヨーカドー(セブンホームセン)	8480	HGチェスト レギュラー 56×41.5×81	西友	1270	MAIN STAYS- 押入衣装ケース 3口有り
配送料/設置料		96	0	0							
簡易クローゼット	1	96	3846	40		セシール	3846	カバー付ハンガー送料込			
食器戸棚	1	96	5400	56	上に電子レンジをおける奥行きのあるもの、送料(500)込	ニトリ	4900	ミニ食器棚 (イーサン MS9060WH) W60×D39×H88	ニトリ	24900	レンジボード(Nバンダ 80MRB-WH) 80×43×115cm
TV台	1	96	4980	52	本やアルバムが置けるもの	イトーヨーカドー(セブンホームセンター)	4980	テレビ台3段 60W	コジマ電気	8300	エレコムTVラック 32型以下

最終品目リスト【高齢単身男性】

高齢単身男性											
	個数	耐用 月数	単価	月額	備考	場所	価格	品名/型番	場所	価格	品名/型番
配送料/設置料							無料				
靴用ラック	1	96	1070	11	8~10足				西友	1070	
本棚	0	96	6980	0	TV台の下に収納	IYホーム センター	6980	120x60x30			
掛け時計	1	36	980	27		イトーヨーカ ドー	980		コジマ電気	1980	CASIOIQ-- 1010J-7JF
目覚まし時計/寝室用	1	36	780	22		イトーヨーカ ドー	980		コジマ電気	780/980	CASIO TQ- 3798J- F/CASIO電波 目覚まし
電気傘(リビング)	1	96	4180	44		コジマ電 気	4180	コイズミ洋風ペ ンダント 電球 型蛍光灯			
電球	1	12	105	9	1年程度で交換	100円均	105				
蛍光灯	1	36	1280	36	1年程度で交換 (寿命3倍の電球)	コジマ電 気	1280	東芝 ネオ ボールZ			
カーテン・ブラインド/リビング	1	36	3980	111	掃き出し窓用(通 常のもの)	イトーヨーカ ドー	3980	カーテン・レース 100×178×2 枚、100×176 ×2枚			
クッション/座布団	1	36	580	16		イトーヨーカ ドー	580	シートクッショ ン、IYノルディ ック 43×43	ニトリ	599	座布団ユキハ ナ ¥599
押入衣装用突っ張り ポール	0	96	1080	0	簡易クローゼット購入	イトーヨーカ ドー	1080	強力L 40kg、 110~190cm	東急ストア	1280	強力ポール 75cm~120cm
寝具類											
ベッド	1	96	15800	165	パイプベッド	イトーヨーカ ドー(セブン ホームセン ター)	14800/1 8800		ニトリ	15800/1 9890	パイプベッド 5990+シングルマ ットレス9990/天然 目シングルフレーム ベッド9,900+シ ングルマットレス9990
配送料/設置料	1	96	1500	16			0	無料		1500	
ふとんセット	1	36	7900	219		イトーヨーカ ドー	7900	西川リビング 合繊 掛け、敷 き、枕3点セット	ニトリ	5990	羽根ふとん+ホ リエステル綿敷 き布団+ホリエ ステル綿枕5990/羽毛 ふとん+ホリエ ステル綿敷き 布団+ホリエ ステル綿枕
毛布	1	36	1980	55	ウール、5年に一度ク リーニング	イトーヨーカ ドー	1980	軽量 ポリエ ステル 洗える毛 布	ニトリ	990/490 0	マイクロファイ バー 140x190ホリエ ステル990/1400、 7 クリル2枚合わせ 4900、綿毛布 2400
枕	0	36		0	布団セットに込み				ニトリ	490	ホリ、羽根、そ ばいずれも490
掛け布団カバー	1	36	980	27		イトーヨーカ ドー	980	シングル 綿 100%	ニトリ	770	770/990/1100
敷布団カバー	1	36	1900	53		イトーヨーカ ドー	1900	綿100%			
枕カバー	3	36	480	40		イトーヨーカ ドー	480	綿100%	ニトリ	290	290/340/390
タオルケット	1	36	1900	53		イトーヨーカ ドー	1900		ニトリ	1900	シングル(ムネンワ フル 010 S) /2400
家事用品(食器・調理器具等)											
茶碗	2	24	198	17		イトーヨーカ ドー	198				
汁椀	2	24	198	17		イトーヨーカ ドー	198	電子レンジOK			
急須	1	24	980	41		イトーヨーカ ドー	980	網付/ガラス付			
皿・大	2	24	268	22		イトーヨーカ ドー	268	丸プレート 23cm			
皿・小	2	24	178	15		イトーヨーカ ドー	178	丸ボール14cm			
皿・中	2	24	178	15		イトーヨーカ ドー	178	丸プレート 15cm			
マグ	2	24	390	33		イトーヨーカ ドー	390	軽量マグ			
丼鉢	2	24	590	49		イトーヨーカ ドー	590	軽量丼鉢			
中鉢	2	24	670	56	レンジ可、蓋付き	イトーヨーカ ドー	670	ふたつき			
小鉢	1	24	298	12		イトーヨーカ ドー	298	丸小鉢			
タンブラー	2	24	98	8		イトーヨーカ ドー	98	ガラスタンブラー			
スプーン 大	2	60	98	3		イトーヨーカ ドー	98				
スプーン 小	2	60	98	3		イトーヨーカ ドー	98				

最終品目リスト【高齢単身男性】

高齢単身男性											
	個数	耐用 月数	単価	月額	備考	場所	価格	品名/型番	場所	価格	品名/型番
フォーク 大	2	60	98	3		イトーヨーカ ドー	98				
フォーク 小	2	60	98	3		イトーヨーカ ドー	98				
はし	2	60	360	12		イトーヨーカ ドー	360	5本セット			
ポット(魔法瓶)	1	60	3280	55	2ℓ	ゴジマ電	3280	象印2.2L			
フライパン・大	1	60	980	16	大小必要	イトーヨーカ ドー	980	26cm	東急ストア	1780	IH対応 28cm
フライパン・小	1	60	980	16		イトーヨーカ ドー	680	16cm	東急ストア	980	20cm
フライパン・ふた	1	60	500	8		イトーヨーカ ドー	500	22~26cm兼用			
鍋(片手・両手)	2	60	1878	63		イトーヨーカ ドー	698/1180/ 2480	ガラス蓋付ステン ス片手16cm、 18cm/ 両手 24cm/22cm	東急ストア	1280/11 80	片手/両手
やかん	1	60	590	10		イトーヨーカ ドー	880	IHステンレス笛 吹き	東急ストア	590	200V IH対応ケ トル 1.5L
包丁 肉用	1	60	980	16		イトーヨーカ ドー	980	穴あき三徳 包丁			
果物ナイフ	1	60	580	10		イトーヨーカ ドー	580	木鞘付果物 ナイフ			
栓抜き	1	60	348	6		イトーヨーカ ドー	348	5徳栓抜き	100円均 ー	105	
ざる	2	60	105	4		イトーヨーカ ドー	480/580	ステンレス柄付 18cm/丸21cm	100円均 ー	210	大1小1
まな板	1	60	398	7	プラスチック、軽め のもの	イトーヨーカ ドー	398	20×30cm プラ抗菌	東急スト ア	1180	抗菌まな板
水切りかご	1	60	980	16		イトーヨーカ ドー	980	プラスチック	100円均 ー	105	
タッパーセット	2	60	315	11	大・中・小のセット	東急スト ア	468/398 /328	Fキーパー大/ 中/小	100円均 ー	315	大・中・小
調味料ケース(塩、さ とう)	1	60	105	2			100円均 ー	2個セット	ニトリ	390	調味料ポット2 個セットラック つき(MW09-05)
お玉	1	60	198	3		イトーヨーカ ドー	198	ナイロンお玉	100円均 ー	105	
フライ返し	1	60	198	3		イトーヨーカ ドー	198	ナイロンター ナー	100円均 ー	105	
おろし器	1	60	680	11		イトーヨーカ ドー	680	受け皿付アル ミ			
さいばし	1	60	100	2		イトーヨーカ ドー	100	3本ひも付き (大、中、	100円均 ー	105	
ボール	3	60	315	16	大、中、小各1	イトーヨーカ ドー	480/580 /680	ステンレス 15/18/18	100円均 ー	105	
三角コーナー	0	60	348	0		イトーヨーカ ドー	348	プラスチック	100円均 ー	105	
生ゴミ用ネット	1	1.7	105	63	毎日1枚ずつ	イトーヨーカ ドー	105	50枚入り			
キッチンタイマー	1	60	598	10		イトーヨーカ ドー	598	イチゴ型タイ マー			
餅焼きあみ	1	60	105	2			100円均 ー	105			
醤油さし	1	60	600	10		東急ストア	600	85mℓ			
バス回り											
バスタオル	2	12	580	97		イトーヨーカ ドー	580	1枚	東急ストア	1000	
バスマット	1	36	1460	41		イトーヨーカ ドー	980/480	バスマット+ タオルマット/替 タオルマット	ニトリ	249	ワッフル 30X50 ノンスリップ 249/ノンスリ ップ 45X65
洗面器	1	96	398	4		イトーヨーカ ドー	398	トレンドスタイ ル	東急ストア	480	湯桶(ホーム)
浴用いす	1	96	880	9		イトーヨーカ ドー	880	トレンドスタイ ル	ニトリ	590	風呂椅子 小 (ホーム BR)
風呂用片手桶	1	96	520	5		イトーヨーカ ドー	520	トレンドスタイ ル	東急ストア	580	
風呂掃除用ブラシ	1	36	298	8		イトーヨーカ ドー	298	セブンプレミア ム バスフレッ ク	ニトリ	290	バスクリナー
風呂掃除用洗剤	1	2.5	286	114		イトーヨーカ ドー	198/88	セブンプレミア ム 400mℓ/詰 替350mℓ	東急ストア	340	バスマジックリ ン 400mℓ
ボディソープ	1	5.7	496	88		イトーヨーカ ドー	298/198	セブンプレミア ム600mℓ/詰 替420mℓ	東急ストア	2	ビオレ580mℓ/ 詰替
シャンプー	1	9.2	796	87		イトーヨーカ ドー	498/298	メリット530mℓ/ 詰替298mℓ	東急ストア	598/398	メリット530mℓ/ 詰替298mℓ
リンス・トリートメント	1	9.2	796	87		イトーヨーカ ドー	498/298	メリット530mℓ/ 詰替298mℓ	東急ストア	598/398	メリット530mℓ/ 詰替298mℓ
石鹸おき	0	36	280	0	ボディソープ使用	イトーヨーカ ドー	398	トレンドスタイ ル	東急ストア	280/380	石鹸箱/石鹸置 き